

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第17号 2019年10月



## —目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
濱田州博先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
夏期海外研修報告	8
海外で働く保健学科卒業生	12
学生課外活動支援	12
活動報告	14
卒業生の声	16
総会記録	18
平成30年度事業報告	19
令和元年度事業計画	20
同窓会役員	20
編集後記	20

2019  
第17号

## 信州大学創立70周年、医学部創立75周年、そしてアポロ月面着陸から半世紀

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行  
(信州大学名誉教授／医学部特任教授(研究))

今年には信州大学創立70周年に当たり、3月の信毎メディアガーデンでのシンポジウム「赤レンガで繋ぐ時、街、人」を皮切りに記念行事が続きました。「赤レンガ」は、保健学科西側にある登録有形文化財の旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫を指します。地域の方とも共有可能なランドマークとして、「赤レンガ」再生を図るとのことですが、竣工から100年以上経過して外壁モルタルが剥離し雨漏りするなど、補修/改修が急務です。このシンポジウムに出席した私は、保健学科に寄り添って静かに佇む「赤レンガ」の意味、歴史、使命を考える機会になりました。

今年の入学式では、昨年イグノーベル賞を受賞された堀内朗先生と、初代保健学科長で今春に第19回現代俳句大賞を受賞された宮坂敏夫先生に同窓会連合会賞が授与されました。入学式で全員合唱されてきた宮坂先生作詞の信州大学学生歌「叡智みなぎる」は、今年が最後の合唱になるのでしょうか。新しい信州大学歌が、全国公募の作詞、全国公募の作曲で新規制定され、6月1日の開学記念日に松本芸術館で開催された70周年記念式典でお披露目されたからです。

また、医学部は松本医学専門学校開学から今年で創立75周年です。四半世紀ごとに記念行事が開催され、前回50周年時は保健学科の誕生日でしたが、今回の節目から保健学科も加わって祝うことになりました。記念誌刊行に際し、保健学科同窓会沿革史の執筆に関わった私は、同窓会設立に纏わる秘話を著しながら、同時に思いを馳せる時間を味わいました。

1969年7月20日(日)午後4時17分のアポロ11号月面直陸から半世紀が経ちます。この瞬間は「米国東部の夏時間」で、日本時間は7月21日(月)正午少し前頃でした。当時の私は、保健学科の前身の医療短大の前身の臨床検査技師学校のそのまた前身の衛生検査技師学校の学生でした。この日の午前中は上村英夫先生(後の医療短大助教授)の血清学でし

た。上村先生を知る人は驚くでしょうが、人類初の月面到達に成功するかの偉業の最中に、講義どころではない、とのことで休講にし、教務室のNHKの同時中継映像と音声にクラス全員で釘付けに



なったことが懐かしく想起されました。月面に一步を標したアームストロングの第一声を同時通訳した西山千・國弘正雄両氏の名通訳も明瞭に耳に残っています。当時は、同時通訳という「語」も「専門職種」も知られておらず、私ならずとも殆どの日本人に新鮮に響いたというより、驚嘆に値する同時通訳で、視聴した日本人に大きなインパクトを与えました。これまで憧れの職業には、「スポーツ選手」「医師」「看護師」「弁護士」等々が上位独占していましたが、アポロ11号月面着陸の1969年には、なんと「同時通訳者」が、なりたい職業ランキング1位になったことが何よりの証でした。

昨年12月12日早朝に上村先生は卒寿で亡くなりましたが、人類初の月面到達の瞬間をリアルタイムで視聴できたのは、その上村先生の粋な計らいがあったからこそで、今年に大いに話題になったこのニュースは、私にとって当時を懐古する契機ともなりました。

信州大学に、また保健学科に纏わる出来事に関連して記しましたが、保健学科と保健学科同窓会設立20周年までもう少しです。今後、どんな輝かしい歩みを刻んでいくのか、わくわくしながら母校保健学科の発展を同窓会はしっかり見守っていきます。

# 信州大学医学部保健学科同窓会報 学長挨拶 2019年

信州大学 学長 濱田 州博

日頃より信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

本年ですが、和暦では4月までが平成31年、5月以降が令和元年、西暦では2019年です。新元号が「令和」に決まり、当初の予想通り新元号の頭文字は、「R」となり、明治、大正、昭和、平成の頭文字である「M」、「T」、「S」、「H」とは異なるものとなりました。頭文字を使うと、今年はR1年と書くこととなりますが、ヨーグルトを連想するのは私だけでしょうか。

天皇陛下が行われる儀式で、お召しになっている東帯装束をご存知でしょうか。黄檳染御袍（こうろぜんのごほう）と呼ばれています。黄檳染を大辞泉で調べると「染め色の名。黄色みがかかった茶色。黄檳（はぜ）の樹皮と蘇芳（すおう）の心材の煎汁（せんじゅう）に、灰汁（あく）・酢などを混ぜて染めたもの。」と書かれています。独特の染色であり、繊維染色化学を専門とする私にとっては、非常に興味を引かれる装束です。

さて、本年、信州大学は、昭和24年（1949年）に新制大学として設立されてから70周年の節目を迎えました。開学記念日の6月1日土曜日には、記念式典、記念コンサート、市民公開講座をまつもと市民芸術館において、記念祝賀会をホテルブエナビスタにおいて開催致しました。記念式典には、1,000名以上の方が、記念祝賀会には、350名以上の方が出席し、盛大に行われました。周年行事は、皆様方のご寄付により行うことができました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

ここで、長野県内の大学事情について少しだけ触れさせていただきます。2017年に長野大学公立化、松本大学教育学部開設、2018年に長野県立大学開学、諏訪東京理科大学公立化、2019年に長野保健医療大学と清泉女学院大学が看護学部開設とこの3年間で大きな変化をしております。これにより、長野

県内の大学は、国立大学1、公立大学4、私立大学5となり、また、看護に関連した学部は、国立大学1、公立大学1、私立大学3となっております。我々にどのような影響があるか見極めていきたいと考えております。

ところで、2019年は干支で言うと己亥（つちのとい）です。ウェブページで「己」の年の意味を調べると、「完成した自己や成熟した組織が、足元を固めて、次の段階を目指す準備をする年」と記されております。「亥」は、十二支の最後で、種に生命を引き継ぎ、種の中にエネルギーがこもっている状態だそうです。ということで、「己亥」の年は、内なる充実をはかり、次のステージの準備をする年と言えそうです。

信州大学医学部保健学科同窓会が内なる充実をさらに図り、次のステージへステップアップすることを期待しております。末筆ながら、医学部保健学科同窓会に関係する皆様方のご健勝並びにご活躍をご祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。



## 同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **金井 誠**  
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

保健学科同窓会の皆様には、平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

今年も昨年に引き続き、命に関わる猛暑やゲリラ豪雨など、日本の気候が変わってしまった感があります。自分だけでなく周囲の方々の命を守るためにも、熱中症対策や豪雨時の避難（避難場所への移動でなく、自宅内での安全な場所への移動も避難です）など、従来の感覚から脱しての早めの対応の重要性を皆さんで共有いたしましょう。

さて、保健学科では、南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付けて、新しい環境での教育・研究環境を整備中です。こうした事業には、同窓会から毎年頂戴しております専攻配分の教育・研究経費も自己財源とさせていただいております。大きな支援に重ねて御礼申し上げます。ご来校いただいた際には、是非とも新しい校舎などをご覧いただきたく存じます。

また、地域保健推進センターの地域貢献活動として、市民が参加できる健康講座（春と秋開催）は毎回非常に好評で、継続した開講を希望する声を数多く頂戴しております。本年度も春期は「がん」をテーマに4回開講いたしました。秋期も「救急医療」をテーマに開講を予定しております。皆様方もぜひ参加してみてください。また今年も、講座内容をDVDにして、地域に貸し出す企画にも取り組んでいます。

本年は信州大学創立70周年、旧制松本高等学校100周年に当たり、大学全体での記念事業が執り行われましたが、この中で記念市民公開講座の開催を保健学科が担うことになり、第1部では保健学科を中心とする医学部の地域と連携して取り組んできた活動を報告させていただきました。これは健康講座をはじめとする、従来からの保健学科の活動が大学本部から高く評価されている証でもあります。

さらに、保健学科と附属病院看護部とが主体と

なって、平成26年度から実施している文科省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業』が本年3月に終了し、第1期51名、第2期49名の合計100名



という多くの修了生を輩出することができました。在宅療養で質の高いケアを提供する看護師の育成に取り組み、在宅療養支援の手引きの作成などの成果もあげた本事業は、国や多くの関連施設から高い評価を受けています。

以上のように、保健学科では毎年新たな取り組みを積極的に展開しており、さらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 新入教員のご挨拶

### 母校、されど新天地

中込 さと子

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

卒後30年を過ぎた2019年1月1日、母校、信州大学に異動しました。これまでの人生には様々なターニングポイントがあり、新しい目標が与えられ、山梨医科大学病院の臨床、兵庫県立大学、山梨県立大学、広島大学、山梨大学での教育現場を歩んできました。しかし、母校で教育の機会を与えられるとは夢にも思いませんでした。



私の専門は母性看護・助産学です。母性看護学は、名に「母」とある通り、母（親）になる者への看護であり、また<いのちの創造>に関わる過程での看護でもあります。一方、助産師は、英語でMidwifeといっています。Midwifeの語源は、「mid」という「with ～とともに」や「付き添う」という意味と、「wif 女性」の意味が組み合わさったもので、「女性に付き添う者」、「女性とパートナーシップを持って活動する者」と表現されます。

さて、信大の助産師教育は半世紀以上もの歴史があり、脈々と同じ方法で行われています。その中で、改めて助産師基礎教育の目標と方法は何かを先生方と模索しています。赴任して8か月が過ぎ、信大生（後輩）は、とても優秀で、深い探求力を持ち、大きな目標を持つ学生もいますから、それに応えるべく教育方法・環境を創造していかなければならないと感じています。

<母校、されど新天地>で、素晴らしい先生方と力を合せ、教育・研究・地域貢献をしていきたいと思いをします。

### ご挨拶

豊岡 望穂子

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

2019年4月に医学部保健学科看護学専攻小児・母性看護学領域の助教に着任いたしました、豊岡望穂子と申します。助産師として富山大学附属病院の産婦人科病棟とNICUを経験し、このたび信州大



学にて勤務させていただくことになりました。

教育研究職に就くのも、北陸地方を出て長野県に住むのも初めてで、何もかもが新鮮な2019年度、そして令和を迎えました。多種多様な仕事内容だけでなく、松本での暮らし方についても、諸先生方から懇切丁寧に温かいご指導をいただいております。そして、職場や松本の環境に少しずつ順応してきている事に日々感謝しつつ過ごしています。

周産期の臨床現場は毎日新しい気づきに溢れており、特に命に関して考えない日はありませんでした。命ひとつひとつに携わる方々の様々な情報と感情がめまぐるしく変化する状況において、よりの確なケアを選択して実践する事の困難さを感じながら日々働いておりました。しかしその困難の中に、周産期ならではの心揺さぶられる貴重な体験や、ケアを通して自己表現できる、といったやりがいも、確かに存在したと思っています。そんな母性看護や助産の魅力を多くの学生さんに感じてほしい、と考えています。

至らぬ所ばかりではありますが、教育研究者として、また助産師として日々精進し、学生さん達をはじめ、地域社会に貢献できればと思っております。何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### ご挨拶

新井 清美

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

本年度より、看護学専攻成人・老年看護学領域（成人看護学）に着任致しました、新井清美と申します。札幌医科大学を卒業後、都内の病院や大学で勤務し、ご縁あってこの度信州大学でお世話にな



ることとなりました。初めての松本での生活ですが、埼玉県の小江戸・川越で生まれ育ちましたので、城下町の松本にとっても親しみを感じております。

私の専門はアディクション（嗜癖）、いわゆる依存です。アルコールや薬物、ギャンブルをはじめとしたアディクションは、深刻化していくと自分にとって良くないこととわかっているけれどもどうにもならない状態になってしまっていますが、そこまでは至らないけれども問題のある使

用をしている方もかなり多くおられます。この様な方々は多くの場合、地域で生活を送ってらっしゃいますが、臨床現場においては一般科や救急医療の場でお会いすることも珍しくありません。こうした状況から、私は、予防的な取り組みの重要性を強く感じ、地域の方々やアディクションに陥りやすい要因を抱えた方々、援助職を対象とした活動に取り組むようになりました。長野県はこのような取り組みを積極的に行っている数少ない地域ですので、地に根付いた取り組みを学ばせていただきながら、教育・研究活動に専心努力していきたく存じます。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## ご挨拶

松田 和之

(検査技術科学専攻 生体情報検査学領域)

2018年10月1日付けで検査技術科学専攻生体情報検査学領域の教授として着任致しました、松田和之と申します。



私は、松本市出身で、大学卒業後、故郷の松本に戻り、信州大学医学部附属病院臨床検査部に就職し、遺伝子・染色体検査に従事して参りました。遺伝子・染色体検査という特殊性もあり、検査法の選択や結果の解釈等を通して、多くの臨床科の先生方と知り合うことができました。その中で、臨床医の先生方の医療や研究に対する熱意を間近で感じ、私自身も検査のみならず、研究という面で多くのことを勉強させていただきました。

現在、ゲノム医療という言葉が一般化しつつあります。しかし、網羅的で、複雑な、高度な遺伝子解析が遺伝子検査の代名詞のようになり、得られる膨大なデータは容易には解釈することができない、そんな状況になっているように感じます。今後、さらに進化を続けると思われる遺伝子検査ですが、一番大切なことは、検査法でも疾患でもその原理（病態発生メカニズム）を理解することが大切であり、それが検査結果を正しく解釈し、臨床につなげることになると思います。その根本的な「原理」を学べる場が大学です。現場で役立つ即戦力的な知識に偏重せず、「原理」を学ぶ・理解することの大切さを学生さんに伝えたいと思っています。

教育や研究を通して、本学科に貢献できるように努め

てまいります。同窓会の皆様方には、大変お世話になりますが、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ご挨拶

野竈 一平

(理学療法学専攻 応用理学療法学領域)

年度4月に着任しました野竈（のじま）と申します。美しい山々に囲まれた自然豊かな信州の地で、教育・研究にたずさわれることに喜びを感じております。



私の生まれは長野県と同じく自然豊かな和歌山県で、大学院卒業までずっと関西で生活しておりました。その後、名古屋大学で6年間教員をし、今年信州大学に來させていただく機会を頂きました。またアメリカでポストドクもしていたので、留学やアメリカのことに興味のある方は気軽に声を掛けていただけたら嬉しいです。

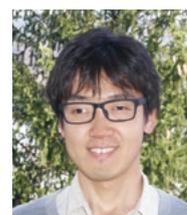
私の研究分野は、ヒトを対象とした神経生理学で、基礎的な知見を積み上げながら新しいリハビリテーションを構築していきたいと考えております。特に、凄まじい勢いで発展する情報技術を取り入れながら、社会に研究成果を還元そして実装していきたいと考えております。教育の目標としては、長野県のリハビリテーション医療に貢献し、地域の発展および地域に暮らす方々の安心・安定した生活を支えられる人材の育成です。日々、学生と共に多くのことを学ばせてもらいながら、色々なことにチャレンジしていきたいと考えておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

## ご挨拶

小宅 一彰

(理学療法学専攻 応用理学療法学領域)

平成31年4月より保健学科理学療法学専攻に着任しました小宅一彰（おやけかずあき）と申します。珍しい苗字ですが、ぜひ覚えてください。



生まれは福島県です。学生時代は山形県で過ごし、その後、千葉県内の回復期リハビリテーション病院で臨床経験を積みました。博士後期課程において、信州大学でお世話になりました。博士

後期課程の3年次に日本学術振興会特別研究員に採用されたため臨床を離れ、その後こちらに着任するまでの2年間は、千葉県成田市にある私立大学に勤務しました。

専門は脳卒中リハビリテーションで、脳卒中患者の運動生理に関する研究をしています。また、教育工学を応用し、リハビリテーションにおける効果的な動機づけ方略を開発する研究も行っています。少なくとも日本では、あまり行われていない研究テーマですので、多くの先生方からご意見をいただき、自分の武器にできるよう発展させていきたいと思っています。

信州大学は、前職に比べ、1学年当たりの学生数が約4分の1です。そこで、授業形式の見直しを図り、学生が自ら調べ・考え・教え合う授業スタイルの構築を目指します。自ら学び研究心をもって臨床現場と向き合える学生を養成したいと考えております。研究と教育だけでなく、長野県における地域貢献においても活躍できるよう努力してまいります。ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## ご挨拶

北川 孝

(理学療法学専攻 基礎理学療法学領域)

本年度4月より保健学科理学療法学専攻に助教として着任致しました、北川孝と申します。本学医学部保健学科の3期生です。



これまで出身である石川県金沢市の総合病院に勤務しつつ、金沢大学の大学院にて博士課程を修了しました。臨床では一般病棟および回復期リハビリテーション病棟の患者様を多く担当してきましたと共に、大学病院ではスポーツ整形外科の医局に所属し、スポーツ医学に関する臨床・研究に携わってまいりました。今回、ご縁がありまして母校であると信州大学・松本に戻ってこられたことを非常に嬉しく思っております。私は教育の経験は乏しいのですが、学生さんの指導には情熱を持って取り組んでまいりたいと思っております。またこれまでお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、少しでも世の中の役に立てるような研究を遂行できるよう日々努めてまいりたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

せっかく信州へ戻ってこられたので、登山に挑戦し

てみたい、おいしいお蕎麦屋さんを探すべく県内を巡ってみたいと思っております。どなたかお薦めの初心者向けの山や、いいお蕎麦屋さんをご存知でしたらお気軽にお声かけていただけますと幸いです。

## ご挨拶

杉本 穂高

(理学療法学専攻 基礎理学療法学領域)

今年度から理学療法学専攻基礎理学療法学領域の助教に着任いたしました杉本穂高と申します。信州大学医学部保健学科理学療法学専攻の8期生として卒業し、卒業後は信州大学大学院保健学専攻



理学・作業療法学分野に進学、同時に松本市内の病院にて勤務、平成29年度より信州大学医学部附属病院リハビリテーション部での勤務を経て現在に至ります。この度教員として母校で働ける機会をいただき、保健学科の諸先生方に心より感謝いたします。

卒業後は病院で運動器疾患のリハビリテーションを中心に携わり、大学院で腹横筋の評価法について研究を行いながら、休日は長野県水泳連盟医科学委員会に所属しトレーナーとしてスポーツ現場で働いてまいりました。これまでのトレーナーとしての経験と今後の活動を生かし、将来スポーツ現場で活躍したいと夢を抱き入学してくる学生たちにスポーツ現場に携わる機会をつくり、彼らの未来に少しでも力になればと考えております。私は理学療法士として、研究者として、教育者として、いずれもまだ未熟なところが多くありますが、今後の医療の発展につながる人材となり、またそのような人材を育てられるように日々精進していく所存でございます。今後ともご指導とご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

# 夏期海外研修報告

シンガポール

## シンガポール海外研修

作業療法学専攻3年 大橋 美友

私はシンガポール共和国夏期海外研修保健医療スタディツアープログラムに参加し、日本とシンガポールの医療制度や考え方の違いなど多くのことについて学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。

研修で訪問したSingapore General Hospital (SGH)の病院内はとても明るく開放的で、病院であるということのを忘れてしまうほどでした。壁には、診察の流れのイラストなどが描いてあったりして理解しやすい工夫がされていました。また、薬局が病院の施設内にあり、薬の処方は全て機械が行っているということで、日本と大きく異なっている点であると思いました。

Seng Kang HospitalではOTの治療場面を見学させていただきました。対象者の国籍や年代に合わせた音楽を流しながらストレッチを行っており、明るい雰囲気を感じました。普段は英語を使っている



が、それぞれの対象者に合わせて中国語やマレー語を話すことも多いと聞いて驚きました。施設の中には、バスやスロープを使う練習ができる部屋があったりして、実際の生活に近い状態で練習ができる環境が整っている印象を受けました。

KK Women's and Children's Hospital (KKH)に訪問し、印象に残ったことは病院で働く職員に対する配慮についてです。事務や掃除の人など、全ての人に役割があるということのを壁に掲示して伝えるなど、働くモチベーションを保つ工夫をしているそうで、このように職員にも目を向けている姿勢は取り入れていくと良い点であると思いました。また、小児外来にはディズニーキャラクターのイラストなど

が描かれており、これはまた来たいと思ってもらうための工夫がされているということで、病院はただ医療を提供していれば良いだけではないということを実感しました。

今回の研修に参加し、日本とシンガポールの医療の違いについて様々な角度から学ぶことができ、非常に充実した10日間となりました。研修中は、英語での会話を求められることが多く、うまく会話ができず困ったことがありましたが、現地の方は親切な方ばかりで、拙い英語でもこちらの伝えたいことを想像し、こちらが理解できない時は簡単に言い換えてくれたおかげでコミュニケーションをとることができました。このように、文化も言語も違う方々の温かさに触れ、日が経つにつれて困った時に現地の方にも話しかけられるようになり、英語でのコミュニケーションスキルも向上したと感じます。今回の研修では国際医療について学び視野を広げることができ、自分を大きく成長させる貴重な機会となったため、今後に生かしていきたいと思います。

シンガポール

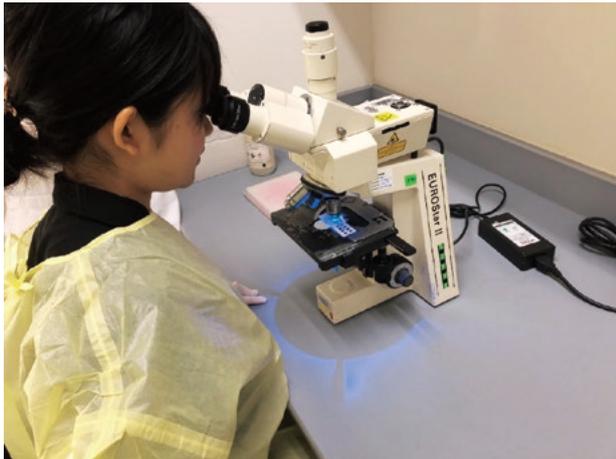
## シンガポール海外研修

検査技術科学専攻3年 高野 くるみ

初海外ということもあり、試験期間直後の疲れを引きずりつつもシンガポール行きの飛行機に乗り込んだ私は少しの不安と大きな期待をもっていました。この研修に参加することできっと何か自分の中に変化が起こるはず。我ながら未熟だとは思いました。



▲研修先のKKHにて



▲SGHのウイルス検査室にて

たが、悪い気はしませんでした。

研修中、医療施設を見学して一番に感じたのはシンガポールの医療施設はどれも「合理的である」ということです。例えばSGHの外来にはいくつもの薬局が入っています。とても広く患者数の多いSGHでは、患者が適宜一番近い薬局を利用することで効率化を図っていました。また院内にはその施設で働く方々の紹介や功績の表彰などが書かれたコーナーや子供たちのためのキャラクターの絵がたくさんありました。そのためか院内の雰囲気はとても明るく、スタッフの方々も生き生きと働いている印象を受けました。そんな中感じざるを得なかったのはシンガポールでの臨床検査技師の知名度の低さでした。シンガポールでは医師・看護師・理学療法士・作業療法士が連携をとりよりよい医療を提供するしくみが確立されていました。しかしそこに臨床検査技師の名が登場することはなくそれどころか、専攻は臨床検査であると言うとそれは何をするのかと聞き返されることもしばしばでした。また国家資格も必要ないことを聞きとても驚きました。そんな中最も臨床検査に触れることができたのはSGHのラボの見学です。今回見せていただいたのは細菌検査室、ウイルス検査室、免疫・血液検査室、輸血部でした。細菌検査室では日本と同様、質量分析・血液培養・インキュベータなどの機器がずらりと並びこれらに加えて薬剤耐性試験も行われていました。実習では一つの検体に対してすべての試験を一連の流れで行っていたため、菌を培地に塗布する人、質量分析を行う人、阻止円の計測を行う人等一人一人の役割が決まっているシステムが新鮮でした。他の研究室でも、ウイルスや抗核抗体の観察、検体受付の様子を

みせていただきました。輸血部以外は外来とは違う建物に位置しており、研究室というよりは普通のオフィスに近いような部屋であったことも印象に残りました。

研修前に漠然と抱いていた自分の期待には無事応えられたように思います。研修前にも訪れていた附属病院を訪れると、今まで気にとめていなかった施設などに目が向くようになっていく自分に気づきました。シンガポールでの臨床検査技師の知名度の低さに複雑な気持ちを持つこともありましたが、臨床検査技師の各国での立場や役割は少しずつ違うということを知ったいい機会でした。また研修中うまく英語で話せずもどかしい思いをすることが多々ありました。次にまたこのような機会があれば迷いなく飛び込んでいけるよう、英語力の強化に力を入れます。また新しい友人ができたり、英語の勉強をしたりなど研修に向けての準備期間も私にとっては非常に有意義でした。なにより自分のために努力することの楽しさを学ぶことができた気がします。今回の研修で得た視点を生かせるよう、努力を楽しんでいく所存です。

## シンガポール

### シンガポール海外研修

理学療法専攻2年 夏目 紗栄

シンガポールに到着した初日は、現地サポーターである中澤さんにお会いし、一緒にチャイナタウンで夕食を食べ、これから始まる研修に期待感を持っていました。

病院研修として初めに行った施設であるSGHでは、シンガポールの医療について理解することができまし



▲セントーサ島での写真



▲カトン地区の街並み

た。シンガポールは国土の小ささゆえ、国全体でシングヘルスという医療ネットワークがある、というのは大きな特徴だと思います。オベの練習をする部屋や、嘔吐や叫び声を遠隔操作できるマネキンなど、病院内に充実した練習設備があることも印象的でした。専攻別の研修では、理学療法学専攻4人が分かれてSGHでのリハビリの様子を見学させていただきました。午前中は外来の患者さんを診察するMSKというところで1人のPTの方につき、午後は整形外科のほうに伺いました。シンガポールは多民族国家のため、どの言語を使うかの確認が必須となります。時にはボディランゲージも大事になってくるのだそうです。装具を見せてくれたり、質問にもわかりやすく答えてくださり、とても勉強になりました。研修後、夕食に誘ってくださってSGHのPTの方2人とご飯に行ったのも貴重な経験となりました。KKHは女性と子供のための病院で、壁にカラフルで可愛い動物の絵などが描かれていたのが印象的です。センカン・ホスピタルには、荷重負荷をコントロールする機械やアタッチメントを変えて車の運転やはしご登りの練習ができる機械など、ハイテクなものが多くありました。ブライト・ビジョン・ホスピタルでは、患者の手首に色のついたタグを取り付けて転倒やアレルギーの有無を示す工夫がされていました。

8日目はSITを訪問しました。SITは、PT、OTになる唯一の学校で生徒が多いため、模型の数が多かったり、プログラミングができるマネキンなど、設備が充実していました。7月に信州大学への研修に参加していたSITの学生と昼食を食べ、みんなでクイズやゲームをして遊びました。SITの学生も私たちも自然と笑顔になり、楽しい時間を過ごすことができました。

今回の日程では、2～4日目と最終日は自由行動でした。アトラクションがあるセントーサ島、シンボルであるマーライオン、異国感漂うリトルインディアやアラブストリート、カラフルな街並みのカトン地区、夜景のショーなど多くの場所に行くことができ、とても充実していました。

今回の研修で、改めて出会いの大切さを知ることができました。現地サポーターの中澤さんや各研修施設のスタッフの方々、SITの学生たち、一緒に渡航したメンバー、様々な人や文化に触れ、温かさを感じることができたのはすごく貴重な体験でした。また、言葉が通じないとしてもジェスチャーを使えば会話ができるし、自ら行動を起こせば交流する機会が増えることも実感しました。英語に対してのモチベーションも上がり、帰国後、英単語の勉強を始めました。今回の研修を今後の大学生活だけでなく、社会人になってからも役立てていきたいです。

## ネパール

### ネパール海外研修

看護学専攻3年 春田 希

今回の研修ではNGOの活動に参加させていただくだけでなく、現地の方と交流することや観光地にも行くことでネパールの文化や宗教も身近に感じることができました。日本にいたるだけではできない貴重な体験ばかりでした。

まず、ADCNというネパールで歯の健康をサポートするNGO団体の活動に参加させていただき、今回は幼稚園児や地域の高齢者向けに歯の健康に関する保健指導を行いました。歯磨きに関するものと食事と運動の大切さを伝える紙芝居を私たちが作成して持参し、それらをマザー（日本でいう保健推進員のような人）たちに園児の前で読んでもらいました。その後の身体測定や歯磨き指導も積極的に行われていました。活動中、ADCNの人たちは手を貸すのではなく、あくまでもサポートするだけでした。また、反省会でもADCNのメンバーがアドバイスするのではなく、マザーたちから意見を集めて、次回に向けた改善ができるような話し合いが行われていました。このような関わり方を通して、今後NGOからの援助がなくなってもその後も自分たちだけで活動を行っていけるように支援していることを実際に感じる事ができました。現状のみに目を向ける

のではなく経年的に考える重要性を感じることができました。

施設見学で初日に訪問したANANDABAN病院はハンセン病患者のための病院でした。薬や治療はWHOや政府からの支援により無料でした。他にはヘルスポストという村の診療所も少し見学させていただき、日本で言う保健師のような人がおり、5ルピー（約5円）で簡単な処置をしていました。村の一つこのような施設があるだけで村人にとって医療を身近に感じることができ、健康が守られていくのだと感じました。

最終日にはネパールでトップレベルの治療を受けられる病院であるGRANDE病院の見学をさせていただきました。病棟の個室には治療費と別に一泊3万ルピー（約3万円）する部屋もありました。基本は看護師：患者=1：4であり、一人一人にフードコーディネーターがついていることで日本よりも手厚い看護が受けられるという印象がありました。

今回、様々な施設を見せていただいて、村の人が気軽に受診することができるヘルスポストから日本と変わらないレベルの治療が受けられる病院まであり、この国に進んだ医療がどんどん取り入れられていくとともに医療格差の拡大を感じました。しかし、この問題を解決するには国民の経済格差をなくす必要があり、そのためにはカースト制度と職業の関係を改善する必要があり、この国の文化とうまく付き合いながら解決策を探る必要があると感じました。

今回の研修で多くのことを学びました。それらを生かして今後も勉学に励もうと思います。



## 海外で働く保健学科卒業生

平成30年10月25日に、国際交流委員会主催による特別講演が行われました。演題名は「理学療法士の国際キャリア」で、講師は向山翼さん（赤十字国際委員会（ICRC）所属。イラクにて勤務）で、理学療法学専攻卒業生（平成23年度卒業）です。



総合病院における理学療法士から青年海外協力隊を経て国際機関としてのICRCで働くことになった経緯や、外国で働くことを目標に大学時代から準備していたこと、スーダンやイラクの理学療法やリハビリテーション事情などを中心として、理学療法士および医療関連職種の国際キャリアまでお話ししていただきました。教職員21名と学生71名の出席があり、貴重な経験を共有できました。



## 学生課外活動支援

### スポーツ大会報告書

平成30年9月26日(水)



平成30年9月26日（水）に信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻3年生が企画したスポーツ大会を松本市総合体育館にて開催しました。このスポーツ大会を行うにあたり、保健学科同窓会から体育館の使用料を助成していただいたのでスポーツ大会を行うのに十分な場所を確保することができ、円滑にスポーツ大会を進めることが出来ました。スポーツ大会には、当初の予定では来ない事になっていた1年生も飛び入り参加し、1年生4名、2年生11名、3年生28名の計43名が参加しました。競技では4つの1～3年合同チームに分かれて伝言ゲーム（絵ver）、クイズ、ドッジボール、バレーボール、障害物リレー（パン食い競争や二人三脚、ぐるぐるバット、お玉ダッシュ、小麦粉の中の飴を探す競技など）を行いました。クイズで先生方に関する問題が出題されたり、障害物競走ではチームリーダーが

体を張って飴を探し、とても盛り上がりました。今回のスポーツ大会で検査専攻1～3年一同、学年の幅を超えて学生間の親睦を深めることができました。  
(検査技術科学専攻3年 吉田諭史)



### 令和元年春季保健学科学生教職員ソフトボール大会

令和元年5月19日(日)



令和元年5月19日(日)13時～16時快晴の下、信州大学野球場において、令和元年第1回信州大学医学部保健学科学生教職員ソフトボール大会が行われました。

いつもより参加者が少なかったため、看護・教職員・院生(16名)、検査(9名)、理学(10名)、作業(9名)の4チームに分かれ1ゲーム50分で保健学科ルールに則り試合を行いました。

金井学科長にもご参加いただき、途中、前学務第二の川船さんも顔を出してくれました。

勝2点、負0点、引き分け1点の勝ち点制で、総当たりで6試合行った結果、1位理学、2位検査(3位とは得失点差も同じであったため、総得点による)、3位看護・教職員・院生、4位作業となり、今回も理学チームの優勝となりました!

当日は非常に暑く熱中症の心配もありましたが、保健学科同窓会から提供いただいた飲み物のお蔭で、初夏の半日を無事、楽しく過ごすことができました。秋の大会には多数の学生・教職員の皆様方のご参加を期待しております。

(文責：検査技術科学専攻教員 奥村伸生)



### 松本ぼんぼん

令和元年8月3日(土)

令和元年8月3日(土)に行われました信州大学保健学科連(学生)による松本ぼんぼんでの踊りコンクールに参加しました。同窓会よりうちわ・ペットボトル飲料の支援をいただきました。理学療法学専攻30人が参加し、交流を深める機会となりました。

(理学療法学専攻2年 川村大樹)



## 活動報告

### 2018年度同窓会からの補助による 実習設備の充実

2018年度の補助金は検査技術科学専攻で以下の物品の購入に充てさせていただきました。

写真に示すCO<sub>2</sub>インキュベーター、顕微鏡用写真撮影装置、分光光度計、検体採取実習用模型（肛門用・口腔鼻腔用）を購入いただき、早速学生実習、大学院生の研究などに使用しております。また、その他呼吸機能検査装置の修理、実験室用椅子カバーの購入に使用させていただきました。



▲CO<sub>2</sub>インキュベーター



▲顕微鏡



▲紫外可視分光光度計



▲鼻腔・咽頭・糞便拭い液採取モデル

### 大平 雅美 退職記念講義

平成31年3月5日(火)

平成31年3月末をもって、理学療法学専攻大平雅美先生が退職されました。3月5日(火)には最終講義「糖尿病の理学療法」が、旭総合研究棟 9階講義室にて行われました。当日は学内・学外関係者大勢の方々のご参加をいただきました。



### 卒業祝賀会

平成31年3月21日(木)

平成31年3月21日(木)にあずみホールにて卒業祝賀会を開催しました。金井学科長と各専攻の成績優秀学生のみなさんです。



▲写真右手から  
海藤貴大さん  
鈴木朝香さん  
看護学専攻・藤野あかりさん  
理学療法学専攻・泉谷惇さん  
検査技術科学専攻・  
作業療法学専攻・

平成31年3月21日（木）に大学院修了祝賀会を開催しました。博士後期課程修了者は9名で、学位論文は以下の通りでした。

- ・太田 佳織 さん  
 Effects of sudden unexpected mechanical perturbation training aimed at the primary prevention of inversion ankle sprain on reactivity of ankle movement and cortical activity in normal young adults  
 (若年健常成人における足関節内反捻挫の一次予防を目的とした不意で突発的な機械的外乱トレーニングが足関節運動の反応性と皮質活動に及ぼす影響)
- ・長谷川 文 さん  
 Development of the Japanese version of the Westmead Home Safety Assessment for the elderly in Japan  
 (日本の高齢者におけるWestmead Home Safety Assessment 日本語版の開発)
- ・黒崎 真樹 さん  
 Intertrial rest for maximum grip and key pinch strength in Japanese young adults  
 (日本人若者を対象とした最大握力測定および鍵ピンチ力測定の試行間休憩時間)
- ・前山 佳彦 さん  
 Prevalence of ESBL/AmpC genes and specific clones among the third-generation cephalosporin-resistant Enterobacteriaceae from canine and feline clinical specimens in Japan  
 (国内のイヌ及びネコの臨床材料から分離された第三世代セファロスポリン耐性EnterobacteriaceaeにおけるESBL/AmpC遺伝子及び特定クローンの分布)
- ・根岸 達哉 さん  
 Characterization of clinically isolated thymidine-dependent small-colony variants of Escherichia coli producing extended-spectrum  $\beta$ -lactamase (ESBL)  
 (臨床検体より分離された基質拡張型 $\beta$ -ラクタマーゼ産生性Escherichia coliのチミジン要求性small-colony variantsの特徴)
- ・徳武 千足 さん  
 Infant Suffocation Incidents Related to Co-Sleeping or Breastfeeding in the Side-Lying Position in Japan  
 (日本における添い寝・添え乳に伴う乳児窒息のインシデント経験頻度と関連要因)
- ・芳賀 亜紀子 さん  
 Autonomic Nervous System Changes in Term Infants during Early Skin-to-skin Contact (SSC) : Examination of SSC Effectiveness and the Influence of Meconium-stained Amniotic Fluid  
 (早期母子接触中の正期産新生児の自律神経機能の変化～早期母子接触の有効性と羊水混濁の影響に関する検討～)
- ・浦 みどり さん  
 Relationship between sleep-disordered breathing and sleeping position at the 37th week of pregnancy : an observational cross-sectional study  
 (妊娠37週における睡眠呼吸障害と睡眠時姿勢との関係：観察横断研究)
- ・島田 岳 さん  
 A multicenter, randomized controlled trial of individualized occupational therapy for patients with schizophrenia in Japan  
 (統合失調症患者に対する個別作業療法：多施設共同ランダム化比較試験)

令和元年6月22日(土)、「誤解だらけのギャンブル依存症」をテーマに、田中紀子氏(公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会 代表。国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 研究生)の公開講演会を開催いたしました。家族がギャンブル依存症であり、自身もギャンブル依存症と買い物依存症から回復した経験をお持ちです。全国各地で家族相談会やギャンブル依存問題の普及啓発のための講演を行っていらっしゃいます。

当日は教員・学生・市民合わせて200名を超える方々が参加し、ギャンブル依存症とはどのようなものか考える貴重な機会となりました。



## 卒業生の声

### 「卒後の歩み」

森山 将太／看護学専攻7期生

信州大学を卒業し県内の病院で看護師として働き早いもので6年目となりました。新卒で手術室に配属され5年間勤務し現在では急性期病棟に異動となりました。社会人となり、学生の頃よりも怒涛のように時間が過ぎるのが早く、学部生の頃が非常に恋しく感じる今日この頃です。

私は看護師として働いていく中で、多くの患者さんを診ていくのと同時に多くの看護師の働く姿を見ってきました。そこには、過酷な労働環境やストレスの中で患者さんのために働く看護師の姿が多くありました。その姿や労働環境を見て、私は「同じ資格を持って働く数多くの仲間のためになることをしたい」と思い、昨年大学院進学を決めました。そして今年、母校である信州大学の医学系研究科保健学専攻看護学領域修士課程に入学しました。臨床を通して感じた私自身の志を大切に大学院で研究し、臨床で頑張ってくれている多くの仲間に将来研究を通して還元できればと思っています。

私は大きな目標や子どもの頃からの夢を持って看護師になっていません。そのため、学部生の頃から看護師としてやりがいや目標ができるのか不安でした。しかし、今では大きな目標や志が私を支えてくれているのが実感できます。昔の私からは想像できない今ですが、自身の目標に向かって、これからは邁進していきたいと思っています。



### 「睡眠医療」

北川 真奈美／検査技術科学専攻8期生

私は信州大学を卒業後、磐田メイツ睡眠クリニックという睡眠障害専門のクリニックに就職しました。睡眠医療に馴染みのない方がほとんどかと思えますので、ご紹介しようと思います。

睡眠クリニックを受診する患者の大部分が睡眠時無呼吸症候群です。いびき、無呼吸の自覚症状を持った方だけでなく、社会的に眠気が問題になる職業ドライバーや早期治療が望まれる子供も受診に来ます。無呼吸は経鼻的自動陽圧呼吸療法(CPAP)という鼻から空気を送る機械を装着して眠ることで格段に解消されますが、CPAPを使用していないと治療効果はありません。私たちは患者が毎日欠かさずCPAPを使用することができるようにサポートを行っています。検査技師の仕事は夜間の睡眠検査だけでなく、検査に基づいた適切なCPAPの圧力の判定や、CPAP使用困難への対応など睡眠医療で中心

的な役割を果たします。

職場の磐田メイツ睡眠クリニックには、系列の睡眠クリニックが豊橋、岐阜、岡崎にあります。合計4か所で東海地域に根ざした睡眠医療を行い、業界トップクラスの診療実績となっています。また、日本睡眠学会認定検査技師の育成にも力を入れており、外部の勉強会や睡眠学会にも参加しています。専門性を持って患者と接することで、治療の一助となることにやりがいを感じながら仕事をしています。

信州大学の卒業生でも睡眠医療に携わっている検査技師が増えているようです。睡眠医療に興味のある方がいっそう増えると嬉しいです。

## 「ONもOFFも異文化交流」

齋藤 幹剛／理学療法学専攻3期生

卒業後、11年が経とうとしています。私はその間、急性期病院、老健、重症心身障害児施設を経験し、今は特別支援学校でPT業務にあたっています。学校には医療とは異なる言語・文化・価値観が沢山あり、入職当初はまるで「教育国」という国に、「医療国」から来た私が「外国人」として迷い込んでいるかのような感覚がありました。今なお苦労は多いですが、ここで「知識や技術があっても、その「国」の言葉や文化を理解・尊重し、一人の人として受け入れてもらえないと、仕事にならない」という大切なことを教わりました。私の趣味の一つに、世界を旅することがあるのですが（只今ミャンマーより寄稿しています）、何もわからない外国でいかに自分の話を聞いてもらい、希望を伝え叶えるか、というプロセスは、現職の状況と非常に似ており、今までの経験が少なからず役立っている気がして面白いなと思っています。



▲ミャンマーの学生さんと

さて、大学時代の仲間とは、いまだによく話をします。卒業後数年はそれぞれの立場から、お互いの職場のことやPTの方法論など、比較的それっぽい？話がメインでしたが、最近は医療福祉の将来、事業の立ち上げ、資産運用、家族や人生、幸

福について…など、より幅広いテーマで真面目に議論することが多くなり、時間とともに自分たちの中身も変化していることを実感しています。

同窓生や職場関係者、子どもやそのご家族など、その関わりの中でいつも多く方に示唆や気づきを頂いています。ささやかでも人の幸せに寄与できるPTであり人間になれるよう、これからも「異文化交流」を続けていきたいと思っています。

## 「近況報告」

鈴木 章仁／作業療法学専攻6期生

信州大学を卒業してから松本市の隣の安曇野市にある安曇野赤十字病院に就職して8年目になります。私は岐阜県出身であり、大学入学当初は隣の県である長野県の寒さを甘くみており、滅多にひかなかった風邪をひいたことを今でも忘れていませんし、この寒さには今でも慣れていません。



近況報告ですが、私は入職してから1年間急性期病棟、6年間回復期リハビリテーション病棟に所属して、現在は訪問リハビリテーションを行っています。これまでに働きながら信州大学の大学院に進み、大学院に行きながら結婚と子供の誕生を経験するなど、とても忙しかったですが、充実した日々を過ごしました。現在は大学院を卒業して、育児・家庭と仕事の両立を目指して日々奮闘していますが、どちらも中途半端になっているように感じます。それでも「育児・家庭を理由に仕事を疎かにする」または「仕事を理由に育児・家庭を疎かにする」ということだけはしないように（または思っても口にしないように）頑張っていきたいです。

今後は訪問リハビリでの臨床研究を行っていきたいと思っています。しかし、臨床研究と言っても研究のための研究ではなく、患者や家族へのサービスを向上させることを忘れずに行わなければなりません。そのためにもまずは普段の臨床での疑問点を持つことや自己研鑽のために論文を読むこと、研修会に参加することは仕事の一環として行い続けていきたいです。もちろん、育児・家庭を疎かにしないことは忘れずに。

# 総会記録

## 令和元年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会 議事録

日 時:令和元年6月22日(土曜日)15:15から16:00 司 会:奥村伸生幹事  
場 所:医学部地域保健推進センター多目的講義室 出席者:23名

1. 保健学科同窓会長挨拶  
川上由行保健学科同窓会長より開会の挨拶があった。
2. 保健学科同窓会名誉会長(保健学科長)挨拶  
金井誠保健学科学科長より挨拶が行われた。
3. 議長選出  
保健学科理学療法学専攻教員 杉本穂高氏が選出された。
4. 平成30年度事業報告および決算報告(資料1, 2)(議案1, 2)  
下里誠二幹事より平成30年度事業報告がされた。  
柳澤節子幹事より平成30年度決算報告がされた。
5. 平成30年度記念事業特別積立金・地域保健設置積立金(資料3)(議案3)
6. 会費納入状況報告(資料4-1・4-2)  
柳澤節子幹事より会費納入状況について報告があった。
7. 平成30年度会計監査報告(資料5)  
小穴こず枝 監事より会計監査報告がなされ「通帳、帳簿、証拠書類を監査し適正に処理されていたことを確認した」と報告があった。  
議案1, 2, 3について特に質疑なく拍手多数により可決承認された。
8. 令和元年度事業計画および予算(案)(資料6. 7)(議案4, 5)  
下里誠二幹事より令和元年度事業計画(案)について、柳澤節子幹事より令和元年度予算書(案)について説明があった。  
議案4, 5について質疑なく拍手多数により可決承認された。
9. その他  
特記事項なし
10. 議長解任

以上  
議事録作成 下里誠二

# 平成30年度事業報告

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進  
(シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム)
- 3) 特別講演の開催  
・平成30年度 保健学科同窓会特別講演  
期 日：2018年 6 月23日(土曜日)  
13:00～15:00  
会 場：信州大学経法学部第2講義室  
講 師：町永俊雄先生  
テーマ：「認知症にやさしい社会」を考える  
—認知症の人の声を聴きながら—
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・祝賀会補助  
・卒業記念品の贈呈(集合写真)  
・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助  
・オープンキャンパス補助  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・新入生合宿研修補助  
・学生への課外活動支援
- 8) 学習環境整備  
・学生支援  
検査技術科学専攻  
(CO<sub>2</sub>インキュベーター、顕微鏡撮影装置、  
分光光度計、検体採取実習用模型、呼吸機能検査装置)

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻  
……………アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻  
……………臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻  
……………州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第16号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
  - ①平成30年度総会の開催  
・平成30年 6 月23日(土)15:15～16:15  
信州大学経法学部第2講義室
  - ②理事会の開催  
・令和元年 6 月13日(木)18:00～20:00  
保健学科中校舎 2 階会議室
  - ③幹事会の開催  
・平成31年 3 月15日(金)17:30～19:30  
保健学科ゼミ室 1  
・令和元年 5 月29日(水)17:15～19:30  
保健学科ゼミ室 1
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携  
信州大学同窓会連合会関係：  
・平成30年 7 月28日(土)  
信州大学同窓会連合会役員会  
旭会館3F 中会議室(川上会長)  
・平成31年 1 月22日(火)  
信州大学知の森基金理事会  
法人本部管理棟5F 会議室(川上会長)  
・平成31年 3 月 3 日(日)  
信大同窓会連合会第23回役員会  
法人本部管理棟5F(川上会長)  
信州大学校友会関係：  
・平成30年 7 月28日(土)  
信州大学校友会理事会  
旭会館3F 大会議室(川上会長)
- 6) 信州医学振興会支援

# 令和元年度事業計画

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールスタディツアーのプログラム）
- 3) 特別講演の開催  
令和元年6月22日（土）13:00～15:00  
誤解だらけのギャンプル依存症  
講師：田中紀子先生  
（公益社団法人 ギャンプル依存症問題を考える会 代表／国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 研究生）
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・祝賀会補助  
・卒業記念品の贈呈（集合写真）  
・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）
- 6) 入試広報活動補助  
・オープンキャンパス補助  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・新入生合宿研修補助  
・学生への課外活動支援

## 8) 学習環境整備

- ・学生支援：理学作業療法学専攻  
（2021年度分を看護学専攻と入れ替え実施）

## 9) 卒業生を迎えた懇談会補助

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第17号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催  
①令和元年度総会の開催  
・令和元年6月22日（土）15:15～16:00  
医学部地域保健推進センター多目的講義室  
②理事会の開催：年1回（5～6月）  
③幹事会の開催
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 信州大学医学部創立75周年記念事業

## 同窓会役員

名誉会長：金井 誠（医学部保健学科）

会長：川上 由行（医学部保健学科）

副会長：松本 早苗（医学部附属病院）

理事：

看護学専攻8名

城井 三奈（医学部附属病院）

松本 恵美（医学部附属病院）

赤池 勝美（医学部附属病院）

白濱 滯（医学部附属病院）

三輪百合子（長野県看護連盟）

坂口けさみ（長野保健医療大学）

内宇田果奈（看護学専攻学生）

上沢 智美（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名

河野 愛未（検査技術科学専攻学生）

赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）

新井 慎平（医学部附属病院）

樋口由美子（医学部保健学科）

理学療法学専攻2名

赤谷 梨緒（理学療法学専攻学生）

杉田 勇（諏訪中央病院）

作業療法学専攻2名

小古井あみ（作業療法学専攻学生）

井戸 芳和（医学部附属病院）

大学院（前期）1名

佐々木友紘（博士前期課程院生）

大学院（後期）1名

黒部 恭史（博士後期課程院生）

幹事：奥村 伸生（医学部保健学科）

中込さと子（医学部保健学科）

下里 誠二（医学部保健学科）

柳澤 節子（長野県看護協会）

百瀬 公人（医学部保健学科）

横川 吉晴（医学部保健学科）

監事：小穴こず枝（医学部保健学科）

務台 均（医学部保健学科）

事務局：中山 秀子

## 編・集・後・記

平成から令和へ移り変わる年となりました。そして来年は東京オリンピック・パラリンピックです。NHKの今年の大河ドラマは「いだてん」、明治から昭和にオリンピックに関わった人々の物語です。視聴率は決して高くありませんが、毎回、興味深く見えています。その中で嘉納治五郎氏が柔道の開祖というだけでなくオリンピック委員を務めたという、日本の近代スポーツ発展に関わっていたことを知りました。誰も見向きもしない時代に、自分を信じて進んでいった姿はファーストペンギンのようで勇気を与えてくれます。（編集人 Y）